

# 大相撲における女人禁制の研究（I）

—— 大相撲観戦者の男女比 ——

生沼芳弘\*<sup>1</sup>・了海 諭\*<sup>2</sup>・山本恵弥里\*<sup>2</sup>・佐々木寿之\*<sup>3</sup>  
小野俊教\*<sup>3</sup>・鈴木貴士\*<sup>3</sup>・芹澤可奈\*<sup>4</sup>

## A Survey of Nix Women in the Sumo Ring (I)

—— A Ratio of Spectators between the Sexes ——

by

Yoshihiro OINUMA, Satoru RYOKAI, Emiri YAMAMOTO, Toshiyuki SASAKI,  
Toshinori ONO, Takashi SUZUKI and Kana SERIZAWA

### Abstract

The Japan sumo association has been maintained the ban on women entering the traditionally men-only sumo ring, from Edo period. At issue is whether Fusae Ota, the prefectural governor of Osaka, and other women should be allowed into the dohyo, the elevated sumo ring, for ceremonies such as awarding the Osaka Governor's Prize at the Spring Grand Sumo Tournament in Osaka. Ota has requested the honor since winning her first term in 2000 and continues to be denied. In Edo period, the women did not allow into the tournament arena. They could allow to see the Grand Sumo Tournament from 1872, after the Meiji Restoration. From that to now, there was no survey to women spectators. This survey made clear the ratio of spectators between the sexes at the Grand Sumo Tournament. It showed that 42 percent of spectators were women. It was more than 25 percent of Japan Professional Baseball, less than 47 percent of J-league Soccer.

### はじめに

現在の大相撲が始まった江戸時代中期の宝暦年間（1751—1763）から、本場所の土俵に女性が入ることは禁じられてきた（女人禁制）。江戸時代は女性の大相撲見物も禁じられていた。明治5年（1872）の本場所から女性の大相撲観戦が許されるようになった。

近年の大相撲の土俵における女人禁制の問題は平成元年（1989）12月、森山真弓官房長官が「女だから大相撲の土俵に上がれないなんて、おかしい」と、翌年（1990）1月初場所の優勝力士に内閣総理大臣賞を森山氏自身が授与する意向が表明したことに端を発している。初の女性官房長官である森山氏の意向に対して当時の理事長である二子山理事長（第45代横綱若乃花）は、「伝統文化

\* 1 体育学部体育学科 \* 2 体育学部非常勤助手 \* 3 大学院体育学研究科 \* 4 東海大学研修員

は守っていかねばいけない」「こういう社会が日本に一つぐらいあってもいい」と森山官房長官の申し出を断った。その後この問題は平成5年(1993)赤松良子文相が「相撲を取らせろというわけではない。なぜ、賞を渡すのに土俵に上がれないのか。横綱審議委員会の構成も女性がゼロというのはいかがか」と述べた。

これを受けて、平成12年(2000)には内館牧子氏が横綱審議委員会初の女性メンバーとなった。また同年、大阪府に初の女性知事が誕生した。その太田房江新知事が三月大阪場所での府知事杯授与を申し出たが、時津風理事長にやはり「いろいろ検討しましたが、もう少し時間をいただきたい」と断られた。平成14年(2002)2月新理事長に‘北の湖’が就任した。再三にわたる太田知事の申し出に新理事長は調査を約束したが、約束は実行されずに1年が過ぎた。平成15年(2003)8月太田知事より筆者に、大相撲の土俵における女人禁制に関する本場所観戦者の調査依頼があった。

本研究は、今年の九月場所から了海・山本・佐々木らの共同研究者と始めた大相撲観戦者の女人禁制に関する意識調査の中間報告である。調査はまだ続行中であり、ここでは大相撲観戦者数とそれに占める男女の割合について、平成15年九月東京場所11日目・十一月九州場所7日目・平成16年正月東京場所7日目・三月大阪場所7日目・五月東京場所7日目・七月名古屋場所11日目の報告をすることにする。

### 1. 平成15年九月東京場所十一日目

2003年9月17日水曜日、九月東京場所十一日目の国技館で初めて大相撲の観客数の調査を行った(表1)。9時に開場、30分毎に男女の入場者数をカウンターを使って記録していった(図1)。総観客数は5490名、男性3200名58%、女性2290名42%、国技館の定員が11060名であるから、この日の観客の入りは約半分の49.6%‘満員御礼’は出なかった。

表1. 九月東京場所十一日目入場者数

時間	男	女	総計
9:30	29	7	36
10:00	39	15	54

10:30	66	31	97
11:00	111	61	172
11:30	159	97	256
12:00	223	149	372
12:30	277	201	478
1:00	389	281	669
1:30	513	388	900
2:00	696	517	1213
2:30	1131	730	1861
3:00	1365	1123	2488
3:30	1953	1520	3473
4:00	2589	1939	4528
4:30	2999	2194	5193
5:00	3142	2268	5410
5:30	3197	2290	5487
6:00	3200	2290	5490

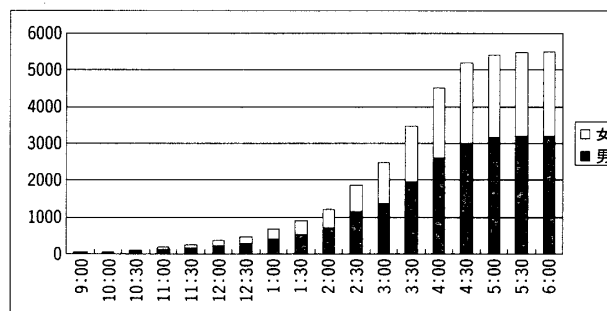


図1. 九月東京場所十一日目入場者数

平成元年(1989)11月九州場所11日目から始まった「満員御礼」は、平成9年(1997)の5月東京場所初日まで9年間続いた。その後、大相撲の人气が低迷し平成15年(2003)初場所からは、従来切符が完売しなければ出さなかった「満員御礼」を、9割方の切符が売れば出すように変更となった。

表2. 九月東京場所十一日目30分毎入場者数

時間	男	女	総計
9:00~9:30	29	7	36
9:30~10:00	10	8	18
10:00~10:30	27	16	43
10:30~11:00	45	30	75
11:00~11:30	48	36	84
11:30~12:00	64	52	116
12:00~12:30	54	52	106
12:30~1:00	111	80	191
1:00~1:30	124	107	231

1:30~2:00	184	129	313
2:00~2:30	435	213	648
2:30~3:00	234	393	627
3:00~3:30	588	397	985
3:30~4:00	636	419	1055
4:00~4:30	410	255	665
4:30~5:00	143	74	217
5:00~5:30	55	22	77
5:30~6:00	3	0	3

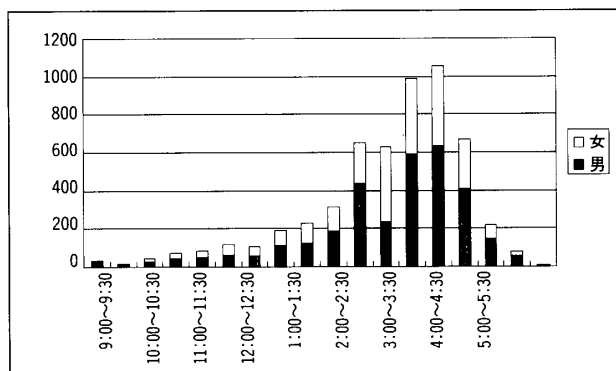


図2. 九月東京場所十一日目30分毎観客数

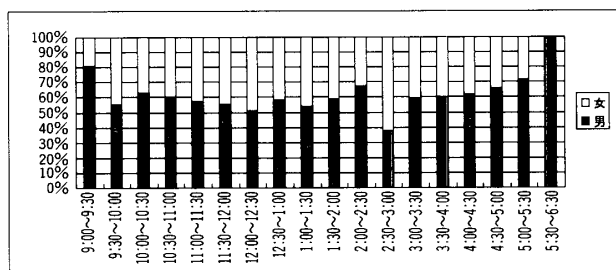


図3. 九月東京場所十一日目30分毎観客男女比率

30分毎の観客数を見ると2:00から4:30の入場者が多く、ピークは3:00から4:00の十両の取り組みから幕内土俵入り・横綱土俵入りの前であった(表2)。特異な現象としては、2:30~3:00の時間帯だけ女性の入場者が男性を上回った(図2図3)。

## 2. 平成15年十一月九州場所七日目

2003年11月15日(土)十一月九州場所七日目の福岡国際センターで、2回目の観客入場数調査と女人禁制に関する観客の意識調査を行った。総観客数は5893名、男性3428名58%、女性2465名42%で、男女比は前回の九月場所と同じであった(表3図4)。福岡国際センターは定員が8927名であ

表3. 十一月九州場所七日目入場者数

時間	男	女	総計
9:30	24	19	43
10:00	35	30	65
10:30	62	44	106
11:00	82	63	145
11:30	153	101	254
12:00	197	132	329
12:30	297	201	498
1:00	396	269	665
1:30	516	367	883
2:00	734	549	1283
2:30	1083	747	1830
3:00	1664	1089	2753
3:30	2276	1619	3895
4:00	2894	2166	5060
4:30	3268	2357	5625
5:00	3395	2441	5836
5:30	3428	2465	5893
6:00	3428	2465	5893

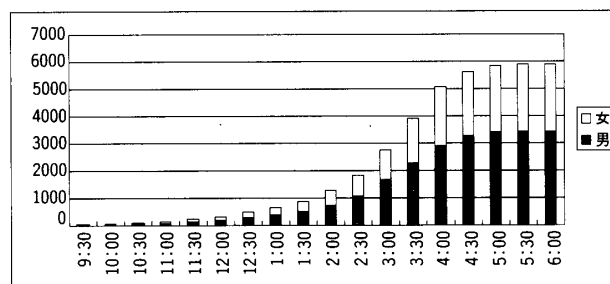


図4. 十一月九州場所七日目入場者数

るから、この日の入りは66%で‘満員御礼’は出なかった。

9:00開場、30分ごとの男女観客入場数と男女比率は、表4図5図6の通りである。

表4. 九月東京場所十一日目30分毎入場者数

時間	男	女	総計
9:00~9:30	24	19	43
9:30~10:00	11	11	22
10:00~10:30	27	14	41
10:30~11:00	20	19	39
11:00~11:30	71	38	109
11:30~12:00	44	31	75
12:00~12:30	100	69	169
12:30~1:00	99	68	167
1:00~1:30	120	92	212

1:30~2:00	218	182	400
2:00~2:30	349	198	547
2:30~3:00	581	342	923
3:00~3:30	612	530	1142
3:30~4:00	618	547	1165
4:00~4:30	374	191	565
4:30~5:00	127	84	211
5:00~5:30	33	24	57
5:30~6:00	0	0	0

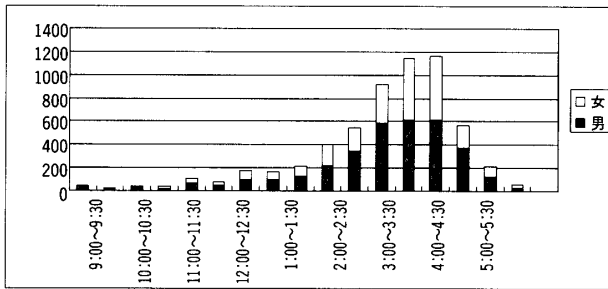


図5. 十一月九州場所七日目30分毎観客数

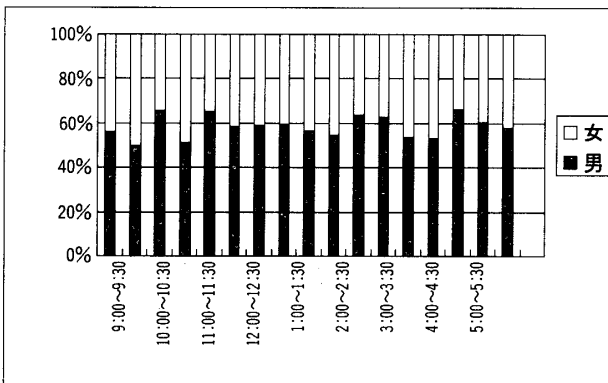


図6. 十一月九州場所七日目30分毎観客男女比率

初めて女人禁制に関する観客の意識調査を実施した。調査方法は質問紙（調査票）を300部返信用封筒を添えて入場直後にゲート付近で配布した。配布方法は、開場午前9:00から午後2:00までの1283名には男女それぞれ約10名に1人の割合で約120枚を配布、午後2:00から4:00までの3777名には約20名に1人の割合で180枚を配布した。従って、午後4:00以降に入場した833名に調査票は配布しなかった。回収は入口ゲート付近の所定の場所で行い、持って来てくれた人には九州場所の番付をお礼として差し上げた。当日回収できた調査票は124部、後日郵送されたものが20部、従って有効回答調査票は144票（男86名・女58名）、回収率は48パーセントであった。

### 3. 平成16年正月東京場所七日目

2004年1月17日土曜日、正月東京場所七日目の国技館で3回目の観客数の調査を行った。総観客数は9306名、男性5487名59%、女性3819名41%、前2回の比率とほぼ同じであった（表5図7）。また、国技館の定員が11060名であるから、この日の入場者は84.4%で‘満員御礼’が出た。

表5. 正月東京場所七日目入場者数

時間	男	女	総計
9:00	33	6	39
9:30	65	22	87
10:00	92	38	130
10:30	135	56	191
11:00	185	96	281
11:30	262	164	426
12:00	390	264	654
12:30	519	378	897
1:00	684	495	1179
1:30	983	694	1677
2:00	1339	988	2327
2:30	1904	1379	3283
3:00	2837	1972	4809
3:30	3910	2759	6669
4:00	4933	3462	8395
4:30	5313	3705	9018
5:00	5448	3793	9241
5:30	5487	3819	9306
6:00	5488	3820	9308

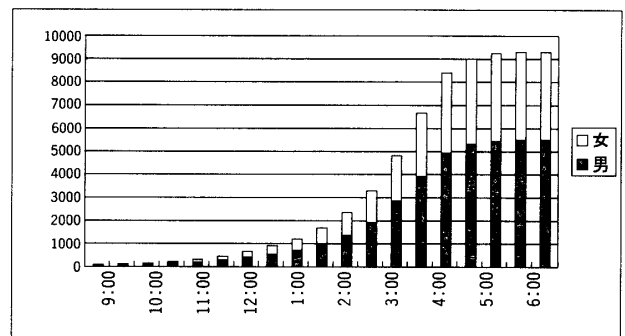


図7. 正月東京場所七日目入場者数

8:45開場、30分ごとの男女観客入場数と男女比率は、表6図8図9の通りである。

### 4. 平成16年三月大阪場所七日目

2004年3月20日（土）三月大阪場所七日目の大阪府立体育会館で、4回目の観客数調査と2回目

表 6. 正月東京場所七日目 30 分毎入場者数

時間	男	女	総計
8:45~9:00	33	6	39
9:00~9:30	32	16	48
9:30~10:00	27	16	43
10:00~10:30	43	18	61
10:30~11:00	50	40	90
11:00~11:30	77	68	145
11:30~12:00	128	100	228
12:00~12:30	129	123	252
12:30~1:00	165	117	282
1:00~1:30	299	199	498
1:30~2:00	356	294	650
2:00~2:30	565	391	956
2:30~3:00	865	593	1458
3:00~3:30	1073	787	1860
3:30~4:00	1023	703	1726
4:00~4:30	380	243	623
4:30~5:00	135	88	223
5:00~5:30	39	26	65
5:30~6:00	1	1	2

表 7. 三月大阪場所七日目入場者数

時間	男	女	総計
9:30	69	23	97
10:00	98	60	158
10:30	119	69	188
11:00	163	97	260
11:30	229	120	349
12:00	336	188	524
12:30	476	264	740
1:00	641	370	1011
1:30	845	518	1363
2:00	1136	702	1838
2:30	1586	968	2554
3:00	1942	1229	3171
3:30	2568	1755	4323
4:00	3208	2193	5401
4:30	3448	2374	5822
5:00	3511	2420	5931
5:30	3533	2431	5964
6:00	3533	2431	5964

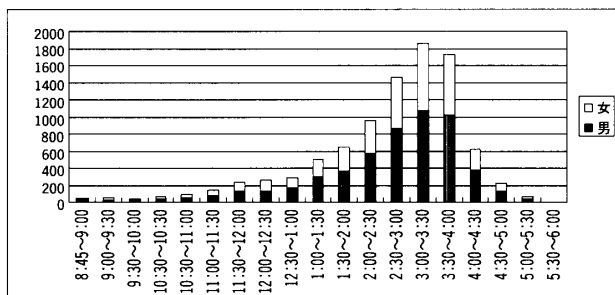


図 8. 正月東京場所七日目30分毎観客数

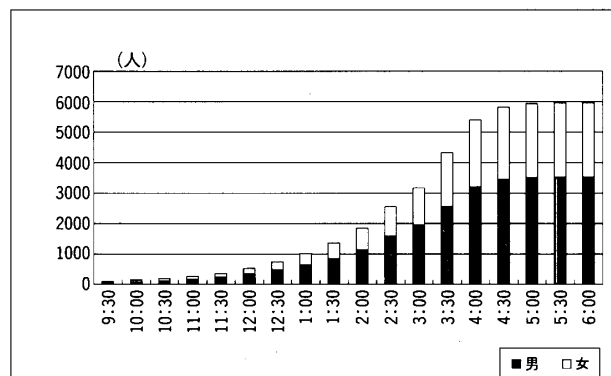


図10. 三月大阪場所七日目入場者数

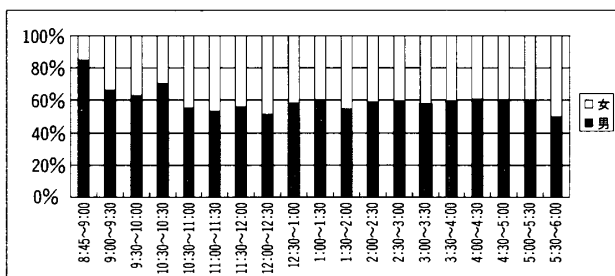


図 9. 正月東京場所七日目30分毎観客男女比率

9:00開場, 30分ごとの男女観客入場数と男女比率は, 表 8 図11図12の通りである。

大阪場所の入場者のピークは, 十両土俵入り前の2:00~2:30と幕内土俵入り前の3:30~4:00の二回あった。女性の入場者が男性を上回る時間帯が18時間帯のうち8あった。

表 8. 三月大阪場所七日目 30 分毎入場者数

時間	男	女	総計
9:00~9:30	69	23	97
9:30~10:00	29	32	61
10:00~10:30	21	37	58
10:30~11:00	44	23	67
11:00~11:30	66	68	134
11:30~12:00	107	106	213

の女人禁制に関する観客の意識調査を実施した。総観客数は5964名, 男性3533名59%, 女性2431名41%で, 男女比は前回の正月場所と同じであった(表 7 図10)。大阪府立体育会館は定員が7981名であるから, この日の入場者は74.7%で‘満員御礼’が出た。

12:00～12:30	140	148	288
12:30～1:00	165	184	349
1:00～1:30	204	266	470
1:30～2:00	291	261	552
2:00～2:30	450	526	976
2:30～3:00	356	438	794
3:00～3:30	626	181	807
3:30～4:00	640	438	1078
4:00～4:30	240	181	421
4:30～5:00	63	46	109
5:00～5:30	22	11	33
5:30～6:00	0	0	0

観客数は7910名、男性4657名59%、女性3253名41%で、男女比は前回の三月大阪場所と同じであった(表9 図13)。国技館は定員が11060名であるから、この日の入場者は71.5%で‘満員御礼’が出た。

表9. 五月東京場所七日目入場者数

時間	男	女	総計
9:00	48	31	79
9:30	88	51	139
10:00	119	70	189
10:30	157	103	260
11:00	214	151	365
11:30	296	191	487
12:00	398	276	674
12:30	512	361	873
1:00	697	502	1199
1:30	958	678	1636
2:00	1395	989	2384
2:30	2000	1362	3362
3:00	2877	2021	4898
3:30	3524	2541	6065
4:00	4118	2906	7024
4:30	4473	3127	7600
5:00	4617	3225	7842
5:30	4656	3253	7909
6:00	4657	3253	7910

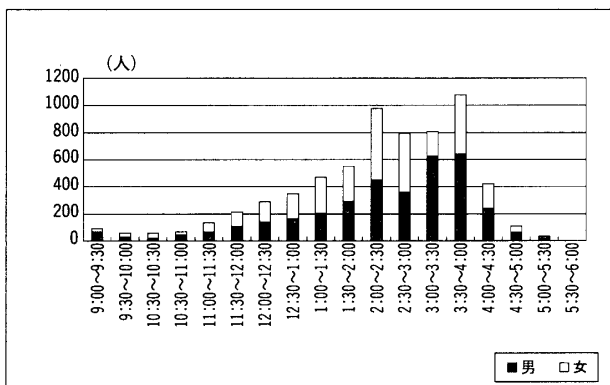


図11. 三月大阪場所七日目30分毎観客数

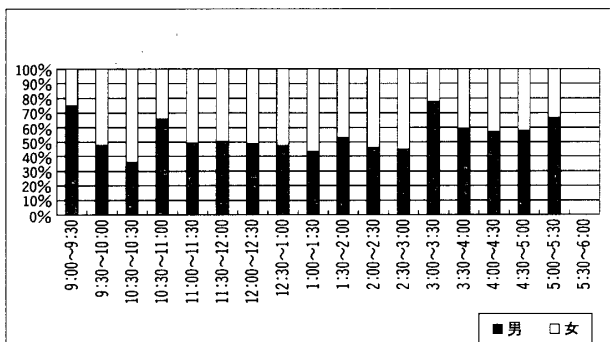


図12. 三月大阪場所七日目30分毎観客男女比率

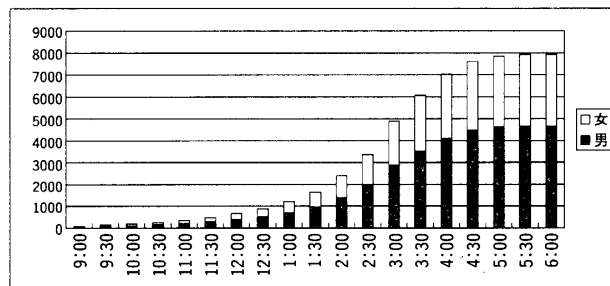


図13. 五月東京場所七日目入場者数

この調査の発端となった太田房江大阪府知事の地元大阪場所で意識調査を実施した。昨年の十一月九州場所で行った方法と同様の方法で実施した。観客400名に調査票を配布、283票(男性162名、女性121名)を回収(回収率71%)した。

五月東京場所七日目は8:30開場で、30毎の入場者数と男女比率は表10. 図14. 図15. の通りであった。この日は2:30～3:00に入場者が集中していた。

### 5. 平成16年五月東京場所七日目

2004年5月15日(土)五月東京場所七日目の国技館で、5回目の観客数調査と3回目の女人禁制に関する観客の意識調査を実施した。この日の総

表10. 五月東京場所七日目30分毎入場者数

時間	男	女	総計
8:30～9:00	48	31	79
9:00～9:30	40	20	60
9:30～10:00	31	19	50

10:00～10:30	38	33	71
10:30～11:00	57	48	105
11:00～11:30	82	40	122
11:30～12:00	102	85	187
12:00～12:30	114	85	199
12:30～1:00	185	141	326
1:00～1:30	261	176	437
1:30～2:00	437	311	748
2:00～2:30	605	373	978
2:30～3:00	877	659	1536
3:00～3:30	647	520	1167
3:30～4:00	594	365	959
4:00～4:30	355	221	576
4:30～5:00	144	98	242
5:00～5:30	39	28	67
5:30～6:00	1	0	1

の愛知県体育館で、6回目の観客数調査と4回目の女人禁制に関する観客の意識調査を実施した。この日の総観客数は4216名、男性2254名53.5%、女性1962名46.5%で、男女比は前回までの5回に比べて女性の割合が最も多かった（表11図16）。愛知県体育館は定員が8327名であるから、この日の入場者は約半数の50.6%で‘満員御礼’は出なかった。

表 11. 七月名古屋場所十一日目入場者数

時間	男	女	総計
9:00	17	17	34
9:30	32	30	62
10:00	44	44	88
10:30	69	66	135
11:00	99	89	188
11:30	183	130	313
12:00	266	179	445
12:30	345	254	599
1:00	451	340	791
1:30	617	514	1131
2:00	759	667	1426
2:30	1027	858	1885
3:00	1335	1129	2464
3:30	1712	1458	3170
4:00	1999	1761	3760
4:30	2180	1893	4073
5:00	2240	1946	4186
5:30	2254	1961	4215
6:00	2254	1962	4216

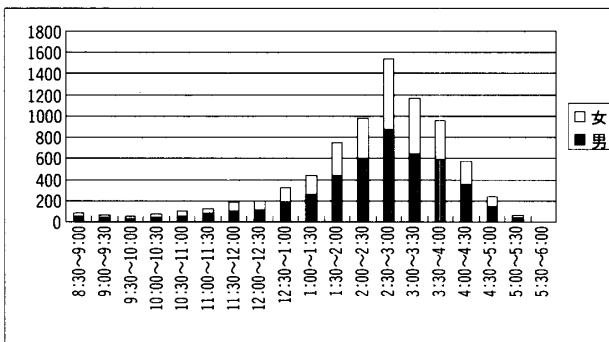


図14. 五月東京場所七日目30分毎観客数

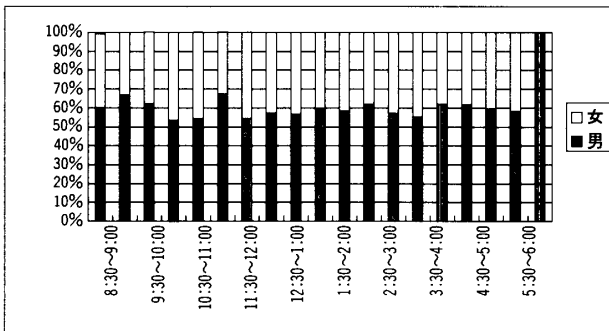


図15. 五月東京場所七日目30分毎観客男女比率

東京場所では初めての女人禁制に関する3回目の観客意識調査を実施した。調査票の配布方法は前2回と同様に男女10名毎に一部ずつ配布し、ピーク時から20名毎に配布した。観客400名調査票を配布し、282票（男性158票・女性124票）を回収（回収率71%）した。

## 6. 平成16年七月名古屋場所十一日目

2004年7月14日（水）七月名古屋場所十一日目

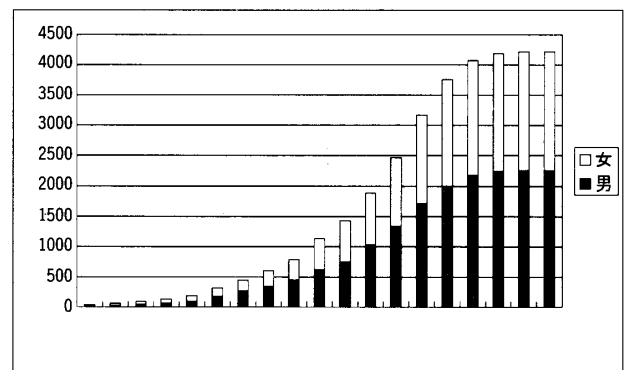


図16. 七月名古屋場所十一日目入場者数

七月名古屋場所十一日は8:30開場、30分毎入場者数と男女比率は表12図17図18の通りである。

4回目の女人禁制に関する観客の意識調査を実施した。調査方法は前回と同様、観客300名に調

表 12. 七月名古屋場所十一日目 30分毎入場者数

時間	男	女	総計
8:30~9:00	17	17	34
9:00~9:30	15	13	28
9:30~10:00	12	14	26
10:00~10:30	25	22	47
10:30~11:00	30	23	53
11:00~11:30	84	41	125
11:30~12:00	83	49	132
12:00~12:30	79	75	154
12:30~1:00	106	86	192
1:00~1:30	166	174	340
1:30~2:00	142	153	295
2:00~2:30	268	191	459
2:30~3:00	308	271	579
3:00~3:30	377	329	706
3:30~4:00	287	303	590
4:00~4:30	181	132	313
4:30~5:00	60	53	113
5:00~5:30	14	15	29
5:30~6:00	0	1	1

場所まで、調査した6回の入場者数をまとめると図19の通りであり、男女別にまとめると図20のようになる。30分毎の入場者数を男女別にまとめると図21のようになり、その男女比率は図22の通りである。

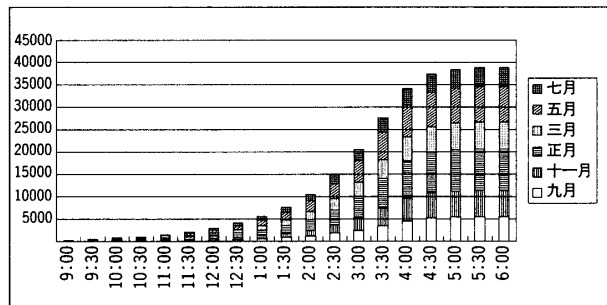


図19. 調査した6回の入場者数

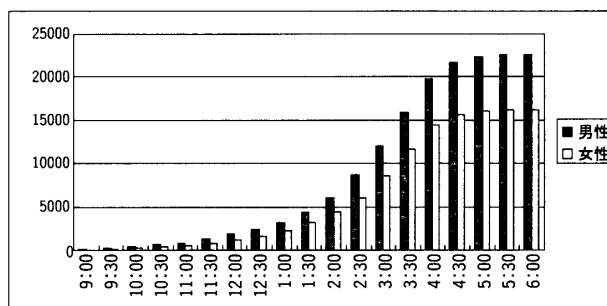


図20. 調査した6回の男女別入場者数

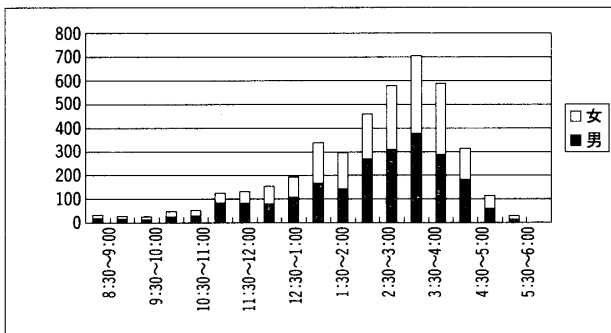


図17. 七月名古屋場所十一日目30分毎観客数

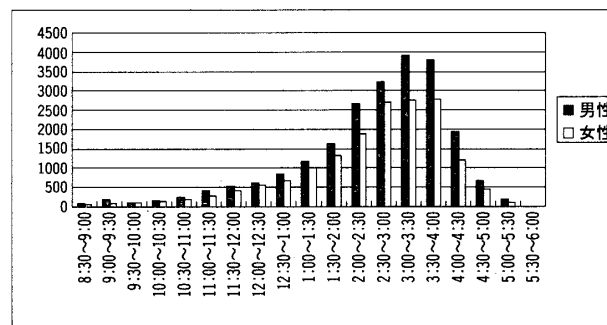


図21. 30分毎の男女別入場者数 (6回分)

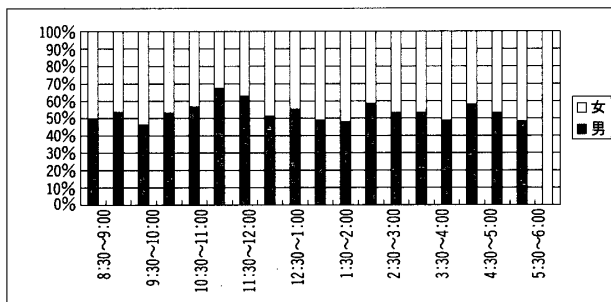


図18. 七月名古屋場所十一日目30分毎観客男女比率

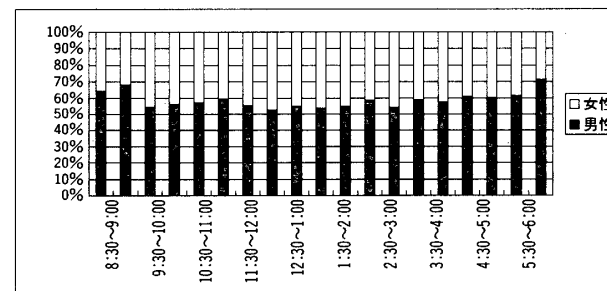


図22. 30分毎の入場者男女比率

査票を配布, 201票 (男性100名・女性100名・性別不明1名) を回収 (回収率67%) した。

### I まとめ

平成15年九月東京場所から平成16年七月名古屋

江戸時代, 女性の大相撲見物は禁じられていた。明治以降については, 和歌森太郎の昭和31年6月



13日付“砂かぶり記”<sup>1)</sup>に下記のようにある。

「明治5年11月24日の東京日日新聞によると、従来相撲は勸進の故を以って（というよりそれが神事芸能である本質の故にだろう）婦女の見物を許さなかったが、その年の冬場所から、ただし二日目以降に限り、婦女の見物を許すに至った。自主自由の権を賜うこの際、当然至極だとある。そして五年後の10年12月8日付曙新聞によると、その冬場所以後、初日から婦女の見物が許されたとある。明治維新後の文明開化の所産である。女性が社会のおもてに出てくる一般風潮に誘われたことはたしかで、この戦後に一段と女性ファンがふえたことも同じ理くつだろう。このような社会の必然に乗って相撲愛好の層が変わって来ているのだということを協会は理解すべきで、ただ数のふえた多種多様になったことをよろこぶに止まらず、そうした社会の発展と均衡を保ちながら相撲道をいかに推し進めたらよいか思案すべきだろう。」

明治5年（1872）の本場所から女性の大相撲観戦が許されるようになったが、その数は130年間明らかにされたことはなかった。昨年からの調査

によれば、大相撲の観客の約42%が女性であった。昭和32年（1957）の和歌森の調査<sup>2)</sup>によれば、4人に一人が女性であったという記述があるので、今から47年前の大相撲の観客は約25%が女性であった。他のスポーツ観戦者の性別比率は藤本・松岡の調査<sup>3)</sup>によれば、プロ野球の場合（神戸グリーンスタジアム）で男性が75%、女性が25%、Jリーグの場合（神戸ユニバー記念競技場）は男性が53%、女性が47%であった。従って、大相撲の観戦者の女性の割合は、プロ野球よりも多く、Jリーグより少ないのが現状である。

#### 引用文献

- 1) 和歌森太郎（1957）「相撲のおもしろさ」文化新書186頁
- 2) 和歌森太郎（1957）「大相撲観客調査結果報告」雑誌‘相撲’昭和32年8月号  
ベースボールマガジン社 205頁
- 3) 藤本淳也・松岡宏高（2003）「プロサッカーとプロ野球の観戦動機の比較分析」  
日本スポーツ産業学会第12回学会大会号 66-67頁